

地域包括支援センター別ワークショップのまとめ

1. 目的

地域包括ケアシステムの実現に向けて、各地域包括支援センターが担当する地区の現状と課題を明らかにし、地区の特性に応じた決め細やかなサービス提供を行うこと、また、平成 30 年度を始期とする第 7 期計画に盛り込むべき施策等を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. ワークショップ概要

- (1) 参加者：地域包括支援センター業務に従事し地域の状況を把握している職員（事務職を除く）
- (2) 会場：各地域包括支援センター
- (3) 開催日時：以下のとおり

■開催日時

センター名	日時
泉苑	1月20日（金）午後5時30分～7時30分
よつや苑	2月21日（火）午後1時30分～3時30分
あさひ苑	2月14日（火）午後6時～8時
安立園	2月10日（金）午後3時30分～5時30分
しみずがおか	2月13日（月）午前9時～11時
かたまち	2月16日（木）午前10時～12時
しんまち	2月2日（木）午後1時30分～3時30分
緑苑	1月25日（水）午後2時～4時
にしふ	2月2日（木）午前10時～12時
これまさ	1月20日（金）午後2時～4時
みなみ町	2月13日（月）午後2時～4時

(4) 実施方法

「1 地区の現状把握（強み・弱み）」「2 現在の取り組み」「3 地区の課題（課題の整理）」「4 目指すべき将来像（地区のあるべき姿）の検討」「5 主要課題の明確化」「6 推進事業の提案と役割分担の検討」について、KJ法により整理を行った。

※ 1～2については、事前に各自で考えを整理し、付箋に意見を記入し当日持参

3. ワークショップのまとめ（全体）

（1）地域包括支援センターについて

いずれの地域包括支援センターにおいても、以前に比べて周知が進んでおり、「自治会・町会や民生委員との協力関係が築けている」（これまさ）、「様々な機関とのネットワークの構築が進んでいる」（しんまち）、「困りごとの相談窓口として認識されてきている」（にしふ）といった状況となっている。

（2）移動支援・買い物支援について

安立園や緑苑といった市中心部に近い地区を除き、移動の問題、買い物難民の増加が指摘されている。あさひ苑、これまさ、にしふ、みなみ町、泉苑では地区内全域的な、よつや苑（駅から離れた場所）、しみずがおか（東側）、しんまち（栄町）、かたまち（本町、矢崎町）では一部地域の課題となっており、高齢により車を手放したときに、途端に移動が困難となるケースなども出てきている。

（3）地域のつながりや地域活動について

長年住んでいる住民による活動的な自治会や老人クラブも多くみられるが、高齢化による弱体化、役員のなり手不足、若い世代や転入者の自治会離れ等が共通の課題となっている。

地域活動については、「介護予防の自主グループ活動が活発となっている」（これまさ）、「地域でのサロン活動が立ち上がっている」（しみずがおか）など、活動の芽も確実に始めている。いずれの地区においても、交流の機会、集いの場の確保が課題として挙げられており、空き家の活用（これまさ、にしふ、みなみ町、よつや苑、安立園、緑苑）といった提案も多くなっている。

4. 地域包括支援センターごとのまとめ

（1）泉苑

併設のサービス事業所の協力体制があり、ケアマネジャー同士のネットワークもできている。大きな病院（多摩総合医療センター、根岸病院、都立神経病院）や文化センターが近くにある。民生委員の地域への積極的な関わりがあり、地域のことをよく理解している。ボランティア活動に熱心な人や体操をしたいという人が多く、住民主体のサロン活動も増えてきている。一方、在宅診療をしている医療機関が少ないこと、商店やコンビニが少なく買い物が不便なこと、交通機関が利用しにくいこと、エリア内に活動に使いやすい会場や体育館が少ないこと、住民の高齢化による自治会活動の弱体化などが弱みとなっている。

課題は、住民への意識啓発、高齢化による地域の弱体化、担い手の育成、人材不足、活動場所の確保、交通手段の確保等となっており、提案された推進事業は、①住民の意識啓発、②PTA・青少隊との交流の機会、③ボランティア育成のための講座の開催（活動の1日体験・座学）、④学校・企業の開放（東芝・三井住友研修所・TOYOTA グラウンド）となっている。

(2) よつや苑

介護予防事業参加をきっかけとして、地域包括支援センターについて知る人が増え、気軽に相談できる環境につながっている（施設の歴史は長いため、「よつや苑」の名前は地域に知られている）。また、近くの小中学校との交流も行われている。圏域内には、介護保険サービス事業所が幅広く揃っており、病院等の医療機関（個人医院から救急病院まで）も比較的多い。地域づくりに積極的に携わる自治会、老人クラブ役員が複数おり、見守り活動で活発な自治会がある。一方、若い世帯（転入してきた世帯）の自治会離れが進んでおり、新旧住民の交流がない状況となっている。また、駅から離れた場所に住民の交通機関が少なく、買い物場所も近くにないため、買い物難民になってしまう地域があること、大きな幹線道路で地域が分断されており、エリア区分（包括、文化センター、老人クラブ等）が異なっていること、ボランティア活動をする人の人数が増えないことなどが弱みとなっている。

課題は、一人暮らしや高齢者世帯の把握、緊急時以外つながりを求めない人への支援、エリア（包括、文化センター、社協等）の違いを超えた連携、防災への取組み、新旧住民の交流、住民の自主活動への支援、空き家の活用等となっており、提案された推進事業は、①独居・高齢者世帯等の地域住民の詳細の把握、②繋がりがたくないと思っている人へのアプローチ、③地域包括と社協の連携と分担となっている。

(3) あさひ苑

自治会や老人クラブ、民生委員のつながりの良い地域があり、長年活動している自主グループは地域に根付いている。また、専門職間の連携ができつつある。一方、医療機関や介護保険サービス事業所が少なく、在宅診療を行うところがほぼないこと、近くに買い物ができる場所がなく、市中心部への公共交通機関が充実していないことなどが弱みとなっている。

課題は、買い物支援、居場所づくり、地域力の強化と見守り等となっており、提案された推進事業は、①買い物のための多様なニーズの把握、②世代を超えた居場所づくり、生きがいづくり、学びの場づくり、③ITの活用（安否確認等だけでなく、生きがいづくりなどにも）となっている。

(4) 安立園

市中心部に近いため利便性は高く、様々な催しも身近で行われており参加しやすい。地域活動も比較的盛んであり、インフォーマルな資源もある。インフォーマルな機関から包括への相談も増えており、相談機関として浸透してきている。介護予防に積極的な自治会や老人クラブがあり、講座の参加者も多くなっている。一方、便利であるために支え合いの気運が育たず、マンション住民と地域住民の交流があまりない、会場はあるが、自主的に体操やサロン等をやろうとする人が少ないといった面もある。また、スーパーや人が集まれる施設の少ない地区（天神町）がある。

課題は、社会資源の把握、人材発掘・活用、世代間の交流、場所の活用（小学校の空き教室、公会堂の使い方、空き家対策）、オートロックマンションへの対応、医療との連携、防災対策等となっており、提案された推進事業は、①マップ作成委員会の立ち上げ（トイレ・ベンチマップ、集える場マップ）、②

地域リーダー、人材発掘と教育)、③共食の場づくり(役割づくり、孤食防止、食べられない市民)となっている。

(5) しみずがおか

地区の西側は交通機関を利用しやすい地域となっている。地域包括支援センターは利便性の高い駅の近くにあり、自治会との繋がりができている。地域づくりに参加したいと考える住民が比較的多く、地域でのサロン活動が立ち上がっている。一方、医療機関(認知症専門医)が少ないこと、地域差があり、東側は買い物をする場所が近くになく、交通が不便であること、高齢化した団地があり、住民の入れ替わりが多いこと、旧住民と新住民が上手く馴染めていないこと、古い住宅が多いことなどが弱みとなっている。

課題は、様々な形での交流の場の確保と立ち上げ、福祉の普及啓発、地域の既存福祉サービスとの地域の繋がりのづくり、認サポの普及、地域課題の掘り起こし等となっており、提案された推進事業は、①世代間の交流の場づくり、②福祉の普及・啓発(認サポ)、③地域既存福祉サービスと地域とのつながりのづくり、④地域課題の掘り起こしとなっている。

(6) かたまち

駅周辺を中心に公共的施設が多く集積し、買い物、交通の利便性は高い。また、地縁組織がしっかりしている地域や老人クラブ活動が活発な地域があり、包括との連携も取れている。一方、マンションへの転入により、オートロックの問題があることや地域のつながりが希薄であることなどが弱みとなっている。

課題は、交通・買い物が不便な地域(本町、矢崎町)がある、世代間や新旧住民の交流がない、住民の意識の低さ、医療機関が少ない(往診医、認知症専門医)、集会施設(公会堂)の利用方法等となっており、提案された推進事業は、①公会堂の開放、②新旧住民、多世代が交流できる場づくり、③重複イベントの整理、④交通難民の解消となっている。

(7) しんまち

活動的な老人クラブや自治会が多く(防災、見守りなど)、コミュニティ協議会の協力体制もしっかりしている。大型スーパーが複数あり、利用可能な駅も多く、バス路線などもあることから、一部(栄町)を除いて利便性の高い地域となっている。地域と地域包括支援センターのつながりも強く、様々な機関(医院、保育園、郵便局、銀行等)とのネットワークの構築も進んでいる。一方、栄町では、東西の交通の便が悪く、バスがほとんど通らない状況にあり、商店、病院、サービス事業所が不足している。また、都心に働きに行っていたサラリーマンが退職を迎え、地域に活躍の場がないといった現状もある。

課題は、地域につながるのいない人の把握、地域包括支援センターのさらなる周知、集いの場の確保(集会場の効果的な利用、公園の活用等)、ボランティアの育成、若年層・男性の力の活用、助け合いの意識啓発、介護事業所が少ないことへの対応等となっており、提案された推進事業は、①シルバー講座(お

金、生きがい、健康等)、②キャリア再活用推進事業、③団地単位のゴミ出し助け合い、④保育園での高齢者と園児交流事業となっている。

(8) 緑苑

予防事業参加者が多く、地域包括支援センターの周知が進んでおり、地域との連携も育ってきている。自治会、老人クラブ、自主グループ等の力があるグループがあり、民生委員も熱心に関わってくれている。ちゅうバスがあるため(行こうと思うところにバス停がある)、交通の利便性は高い。生涯学習センター、ルミエール府中、公園などもあり、運動や自主活動の場となっている。比較的、富裕層の多い地域となっている。一方、介護保険事業所が少ないこと、買い物をする場所が限られていること、新しい戸建てが多く、若い世帯の自治会加入への意識が低いこと、戸建て住民とマンション住民の交流が少ないことといった弱みがある。

課題は、多世代が気軽に行き来できる(集える)場所づくり、有償、無償で活動・活躍できる仕組みづくり、メール配信等を活用した皆が使える、見る掲示板づくり、多世代交流ができるイベントの実施等となっており、提案された推進事業は、①多世代が交流できる場所づくり、②有償、無償で活動・活躍できる仕組みづくり、③メール配信等を活用した皆が使える、見える掲示板作り、④町づくりに予算を増やす、⑤多世代交流ができるイベントの実施となっている。

(9) にしふ

地域包括支援センターから情報を得る人が増えており、近所に困っている人がいると連絡が入るなど、困りごとの相談窓口として認識されてきている。認知症をはじめとした介護予防への関心、意識は高く、教室や講座参加者が昨年度に比べ増えている(男性の参加者が増えている)。一方、社協と包括でエリアが異なるため地域づくりがしにくいこと、買い物をする場所が近くになく、バスの利用も不便であること、教室修了後の自主グループ化の動きがないこと、民生委員のなり手が不足していること、在宅診療医・認知症診断医が少ないこと、空き家が増えてきていることなどが弱みとなっている。

課題は、地域のまとまり(地区の区分け、新旧の入れ替わり)、情報発信、移動手段の確保、ボランティアや住民活動の活性化、医療機関との連携(認知症、在宅医療)、介護予防会場の発掘(曜日、時間帯など)等となっており、提案された推進事業は、①移動手段(バス、車等)、②事業立ち上げ(ミニFM立ち上げ、災害情報、徘徊情報の提供)、③公共、SNS、タブレットの回覧(安否確認、健康管理、買い物、災害情報)、④地域ヘルパー(介護保険ではできない支援)、⑤支え合い、地域貢献(社会の一員としての教育、地域の繋がり・助け合い)となっている。

(10) これまさ

長年住んでいる住民が多く、自治体や老人クラブの活動が活発である。地域包括支援センターの周知も進んでおり、自治会・町会や民生委員との協力関係が築けている。住民の介護予防への関心も高く、介護予防の自主グループ活動も活発となっている。一方、買い物場所や医療機関が少なく、交通の便が

悪いこと（コミュニティバスの巡回経路が少ない）、新旧住民の間に壁があること、活動場所の確保が困難であること、築年数の古い家が多いことなどが弱みとなっている。

課題は、住民への啓発と協力体制の推進、ボランティアセンターとの連携、ボランティア活動の仕組みの強化、空き家・商店街等の活用、関係機関との連携（在宅療養を含めた医療機関、介護保険関連事業所）等となっており、提案された推進事業は、①地域住民、自発性向上事業、②生活支援を担いたい人の発掘、育成事業、③地域を生活しやすくする事業（交通、集いの場、安全）、④介護予防、健康維持事業、⑤安全、安心を確保し安定した生活を目指す事業（見守り体制、防災への取組み）となっている。

（11）みなみ町

昔から住み続け、地域に関心を持つ人が多いことから、自治会が機能しており、祭りや集会等の活動が盛んである。地域包括支援センターの周知が進んでおり、役割を理解している人が増えている。ほとんどの自治会が何らかの見守り活動を行っており、地域内での助け合い（買い物を手伝う、見守りをする、ゴミ捨て等）も一部だが行われている。一方、公共交通機関が圏域内に少ない、道が狭い、歩道のない道があるといった外出の問題を抱えており、商店も少ないことから、高齢者の買い物が困難な状況となっている。また、保健、医療、福祉関係の資源が少なく、文化センターや体育館等の公共施設がない状況となっている。公会堂の立地に偏りがあり、活動の範囲にない自治会もある。

課題は、空き家の活用、買い物・移動手段の確保、住民意識への働きかけ、交流機会の創出、集いの場の確保等となっており、提案された推進事業は、①空き家の活用、②道路と交通機関の問題、③住民の主体性を育てる、④つながり合うイベント、⑤場所の確保となっている。